

ぐりふぁん letter



Vol.
45
2023.2

INDEX

- ◆ ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクト
ウトロに太陽光発電所をつくろう！ . . . 2
- ◆ 新 理事長・副理事長 ごあいさつ . . . 3
- ◆ 地域に根差したエコ学区の展開をめざして
～京都市「エコ学区の取組」 . . . 4
- ◆ COP27参加報告
気候変動による「損失と損害」にどう立ち向かうか . . . 5
- ◆ 2022年度 環境学習
環境腹話術 20年を経て . . . 6
- ◆ 事務局から
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド



ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクト

ウトロに太陽光発電所をつくろう！

京都・宇治にあるウトロは、少し前までは、行政からも地域からも「厄介な場所」として扱われていた土地です。ウトロの歴史は、戦争中にさかのぼります。太平洋戦争中、京都飛行場建設のために働いていた朝鮮人労働者は、飯場と呼ばれる簡易宿舎で、狭く不衛生な生活を余儀なくされていました。そして戦後の混乱の中、この地で生活せざるを得なかった人々によって、住み続けられてきた土地がウトロです。その後も、ウトロの住民やウトロを守る会を中心に、水道の整備を求める運動や、立ち退きに反対する運動等がなされてきました。現在は、土地問題も解決し、なんとか落ち着いた生活を取り戻したところです。



ウトロ平和祈念館は、2022年4月に開館しました。しかしこの直前に、22歳の青年による、ウトロ地区放火事件が起きました。「韓国が嫌いだった」と語った彼は、ネットの情報をもとに誤った解釈を裁判で披露し、ウトロ住民だけでなく、全国にいる在日朝鮮人、また在日朝鮮人とともに活動する人々を恐怖に巻き込みました。

しかし、数多くの運動を闘ってきたウトロの住民は、確かに傷つきながらも、前向きに青年への思いを語ります。「インターネットで調べる暇があったら、ウトロに1回来て、私らに話しかけてくれたらよかったやん。そしたらご飯も食べさせたいし、ビールも飲ませるわな」と。これがウトロの姿であり、むき出しの人情で対話をしながら、一歩ずつ進んできた場所なのです。



そうしてついに、祈念館が完成しました。しかし、これはまだ終着点ではなく、これからも目指すゴールの途中にあるものです。私たちが目指すのは、真の平和。朝鮮人と日本人、北と南、そういう対立のない世界、傷つけあうのではなく尊重しあい、ヘイトもなく、安心して自分らしく生きられる世界。そんな世界を目指しています。

この度、「市民再エネプロジェクト in 京都」さんのご支援を受け、ウトロ平和祈念館の屋上に太陽光パネルを設置することになりました。すでに多くのご寄付をいただいております、ご協力いただいたみなさまには本当に感謝しております。

祈念館に太陽光パネルを設置することは、ますます重要となる気候変動への緩和策の1つであることはもちろん、自分たちで電気を作り使うことで、やっと手に入れた自分たちのウトロを今後も守っていくためのものでもあります。おひさまプロジェクトの輪が広がり、今後も多くの施設におひさま発電所が増えていくことを、願っております。

(ウトロ平和祈念館 館長 田川明子)

「市民再エネプロジェクト in 京都」は2021年から動き始めたプロジェクトですが、現在進行中の「ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクト」が最初のプロジェクトとなりました。

2050年カーボンニュートラルや、災害時の対応を念頭に、地域の施設への太陽光発電設置をさらに進めようと、市民共同発電所＝おひさま発電所設置に20年以上取り組んできたきょうとグリーンファンドと、京都地球温暖化防止府民会議、気候ネットワーク、市民エネルギー京都、エコネット近畿が連携しました。

現在、寄付募集期間は半ばまで来ましたが、今までにない広がりとなっています。今まで設置に取り組んできた24カ所の施設とは明らかに、違う反響です。それは、今までウトロの問題に寄り添い、関心を寄せてきた市民の反応と多くは重なるでしょう。

様々な困難を乗り越えてきたウトロの人々と、寄り添ってきた多くの市民の思いが込められた「ウトロ平和祈念館」は、平和を願う人々が集まる場所、そして今、地球全体の喫緊の課題である温暖化に対するささやかでも確固とした市民の意思を感じさせる場になろうとしています。

現在進行中の争いは、世界がエネルギーや資源、気候変動、食糧などの問題とさまざまに絡み合い、「地球はひとつ」であることを浮かび上がらせています。わたしたちは、一市民として何ができるかを問いかけながら、今回のプロジェクトに取り組み、広げていきたいと思っております。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

理事長・副理事長 就任ご挨拶

前号でお知らせしましたが、突然の松岡憲司理事長のご逝去により空席となっております、理事長に前副理事長 田浦健朗が、9/7をもちまして、就任いたしました。それに伴い、副理事長に理事 山見拓が就任しましたことのお知らせします。

◆ 理事長

・・・田浦 健朗 (気候ネットワーク)

気候正義の実現に向けた市民共同発電所づくり

きょうとグリーンファンドは「原発も温暖化もない世界」を実現したいという思いから、市民共同発電所づくりに取り組んできました。この間、気候変動に関する認識や気候変動対策の内容も大きく変化してきました。京都で採択された京都議定書からパリ協定につながり、国内でも2050年までに脱炭素をめざす地域も増加しています。再エネ100%宣言をする企業も増え、太陽光発電設置の義務化という再エネ普及のための制度も進んでいます。

一方で、気候の危機が進行していて「気候地獄」に向かっているという厳しい現実があります。原子力発電は、極めて高価で経済性に欠け、CO₂の排出削減には貢献できない発電方法であり、安定的な発電もできなければ、事故やテロのリスクが大きく全く安心できないものです。それにもかかわらず、原発の新增設や運転期間の延長を国が進めようとしています。膨大な資金のかかる水素・アンモニアの混焼で石炭火力を延命させようとする「石炭中毒」から抜け出せない問題もあります。

このような時期であるからこそ、きょうとグリーンファンドの取り組みが重要であると言えます。これまでのおひさま発電所づくり、環境教育実施などの経験を活かしながら、京都府地球温暖化防止活動推進センター、エコネット近畿、市民エネルギー京都、気候ネットワークなどとの連携による市民共同発電所づくりも進んでいます。

このような地域に密着している地道な活動を継続していくことが「バタフライ効果」となって、原発も温暖化もない世界につながっていくという希望を持っています。理事長としては力不足ではありますが、みなさまのお力を借りながら、気候正義実現への希望を勝ち取り、生みだしていきたいと考えています。

◆ 副理事長

・・・山見 拓

2022年9月より副理事長に就任しました山見拓(ひらく)と申します。

普段は有限会社ひのでやエコライフ研究所という会社で、中小規模な事業所の省エネ診断や自転車をこいで発電をする「自転車発電装置」の開発や貸出、イベント業務などをやっています。2013年から小さなオフグリッドの太陽光発電システムを作る3日間のワークショップ「家庭菜園するみたいにベランダで太陽光発電しよう!」も企画してきました。自宅でも太陽熱温水器や内窓を自分でつくるなど、必要なモノを手作りすることが大好きだったりします。

お日さまが照れば、電気や熱を分けてもらえる、風が吹けば風車を回してくれる、雨が降れば雨水タンクに貯めてその水を活かせる、電気や熱に必要なエネルギー、水資源はまち中にもあります。日々の暮らしの中で資源のことを意識するのは簡単ではないかもしれませんが、海外など離れた場所から資源を購入するだけでなく、最も身近な太陽の恵みを積極的に活かした暮らしに私たちはシフトしていく必要があります。

昨年、きょうとグリーンファンドのスタッフと理事メンバーで、Googleマップを使い保育園や幼稚園の屋根の発電ポテンシャルを調べました。保育園や幼稚園の屋根だけでも、まちの中には再エネのポテンシャルがまだまだあるということが分かっています。この結果はまた改めて紹介する予定ですが、まちの中にある屋根を活かせば、再生可能エネルギーをもっと利用することができるのは明かです。とは言え、実際におひさま発電所を設置すると、費用の面や施行のタイミング、何より設置の魅力や意義を理解してもらえるかなど課題はたくさんあります。

再生可能エネルギーを広めたいと考える人はもちろん、おひさま発電所を設置した場所で働く人、その場所を利用する人、周辺の地域住民をできるだけ巻き込んでいこうとするスタイルが、きょうとグリーンファンドのおひさまプロジェクトの特徴のひとつだと思っています。「やってみましょう!」といっしょに動いてくれる仲間を、もっともっと増やしていく必要があります。

2020年に生まれた息子が2050にはまだ30歳、その時にどんな世の中を残していけるのか、人生後半戦の大きなテーマになりました。子育てしながらの生活で私個人が動ける時間はどんどん少なくなっていますが、微力ながら未来に希望をもってもらえる活動にしたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

地域に根差したエコ活動の展開をめざして

～京都市「エコ学区」の取組～

(公財)京都市環境保全活動推進協会

竹花 由紀子

◆エコ学区とは～「学区」単位で地域のエコ活動を推進～

京都市内では、国による学校制度制定より早く、明治2年(1869年)に小学校が設立されました。以来100年以上に渡り、「学区」単位で住民自治が行われてきました。学校の統廃合や新設を経て、現在では222の学区が地域コミュニティの単位として受け継がれており、自主防災・住民福祉・体育振興など多くの地域活動が、学区をベースとして行われています。

家庭部門からの気候変動対策は、地域レベルでの意識の浸透が不可欠なため、平成25年度(2013年度)から京都市は、学区単位でのエコ活動を推進する「エコ学区」という取組を開始しました。当協会は、その事務局となる「エコ学区サポートセンター」の業務を担当しています。

◆学習会などを通じ、地域の環境意識向上を

エコ学区サポートセンターでは、222学区に対し

- ・環境をテーマにした学習会実施(2013～2022年度に254回)
- ・地域のお祭りへの環境ブース出展(2013～2022年度に160回)
- ・環境に関する学区からの相談への対応 などを行ってきました。

学習会は、学区からの要望に応じ「ごみ減量」「家庭の省エネ」といったオーソドックスな内容から、近年では「エコと防災」「マイクロプラスチック問題」など時流に即した内容まで。また、「段ボールコンポスト」「ロケットストーブ」などの製作ワークショップや、児童館・小学校での子ども向け講座も数多く行っています。

ブース出展は、学区で行われる行事に自転車発電・環境クイズなどのコーナーを設け、楽しく体験的にエネルギーについて学ぶ機会などを提供しています。

また各学区から「地域で取り組んでいるエコ活動について広報紙を発行したい」「自治会館の蛍光灯をLEDに更新したい」「緑のカーテンについて専門家を紹介してほしい」など様々な相談が寄せられ、ノウハウの助言や団体・人の紹介などを行ってきました。

◆エコ学区の現状

約10年間にわたる「エコ学区」の取組の中で、多くの学区が地域活動のどこかに「エコ」を含めて取り組むようになってきました。また、従来から取り組まれてきた「清掃活動」「資源ごみ回収」に加え、「食品ロス削減に向けたフードドライブ活動」「住民・幼稚園・保育園などと協働した緑のカーテンづくり」「地域の子どもたちへの環境教育」など、学区住民の関心・創意工夫を生かしたエコ学区活動も展開されています。そうした中で、「2050年CO2排出実質ゼロ」に向けて住民同士が意見交換するワークショップを行う学区も出てきました。

一方、ここ3年ほど続くコロナ禍により、地域活動は岐路を迎えています。対面で集まったの活動が長期間にわたって制限され、学習会やブース出展の機会は大幅に減りました。その間にも気候災害は激甚化し、国際情勢に端を発するエネルギー危機は市民生活にも影響を及ぼしています。より有効な対策を実行していきたいところですが、家庭部門で特に有効な対策は「家電・車等の買い替え」「太陽光発電・蓄電池等の設置」「窓断熱改修」などコストがかかるため、取組が進みにくいという面もあります。

◆エコ学区と再生可能エネルギー普及

さて、きょうとグリーンファンドのテーマである「再生可能エネルギー普及」について、エコ学区での実践例を紹介したいと思います。

1つ目は、学区で可動式の太陽光発電パネルと蓄電池を所有している事例。複数の学区において、健康体操でラジカセを鳴らすのに活用したり、防災行事で啓発展示をされたりしています。

2つ目は、地域の施設に太陽光発電システムを設置した事例(上鳥羽北部いきいき市民活動センター)。2016年にきょうとグリーンファンドの市民共同発電プロジェクトとして設置され、現在も地域ぐるみで環境教育に取り組まれています。

エコ学区サポートセンターでは、地域の幼稚園・保育園・福祉施設などへ市民共同発電設置を提案すべく、学区に呼びかけを行っています。学区・コミュニティと、きょうとグリーンファンドを始めとする活動団体・事業者などをマッチングし、地域に根差した実効力ある対策を実現できればと考えています。

◆気候・エネルギー危機に直面する世界

昨年11月、エジプトのシャルム・エル・シェイクで開催されたCOP27に参加しました。COP27は世界が様々な危機に直面するなかで開催されました。まず、ロシアのウクライナ侵攻による人道危機とエネルギー危機です。そして、世界各地で発生する気候変動による洪水、熱波、干ばつなどが引き起こす食糧不足、感染症、生計手段の喪失などの危機。特に、脆弱な人々の生活が脅かされています。

COP26グラスゴー気候合意では、気候危機回避のため、気温上昇を1.5℃に抑えることをめざし、世界全体でCO2排出量を2030年45%削減(2010年比)する必要があることが確認されました。CO2排出量を急速に減らしていかなければ、気候変動による損失と損害も拡大し続けるという状況ですが、COP27直前には各国の削減目標では1.5℃目標にはまだ届かないことが報告されました。気候変動による損失と損害にどう対処し、一方でCO2など温室効果ガス排出削減を強化できるかがCOP27の重要な論点となりました。



◆「損失と損害の新基金」設立が決定

COP27で採択された「シャルム・エル・シェイク実施計画」では、COP26グラスゴー気候合意の内容を再確認し、1.5℃をめざす決意を改めて示すとともに、現在の世界情勢において再生可能エネルギーの拡大の重要性も確認されました。一方で、さらなる排出削減強化を促す合意が期待されましたが、COP26合意を踏襲するに留まりました。ただ、化石燃料を推す声や、2℃への揺り戻しがあつたなかで何とか踏み留まったとも言えます。

歴史的な成果となったのが、気候変動の悪影響への「適応」を超えて発生してしまう「損失と損害(Loss and Damage)」の新基金設立です。島嶼国などは長年、損失と損害に特化した資金支援の仕組みを求めてきましたが、先進国は補償問題につながることを懸念して反対し、COPの議題になりませんでした。これには気候正義の問題、つまり途上国は温室効果ガス排出量が少ないにも関わらず、先進国のこれまで排出の影響で大きな被害を被る不公平が生じていることが背景にあります。



それがようやくCOP27で新たな議題として話し合われたのです。交渉は非常に難航しましたが、最終的には気候変動の悪影響に特に脆弱な国々に対する損失と損害の新基金を設立することが決定されました。気候災害が頻発していること、議長国エジプトの強い意欲や、市民社会からの声が合意の後押しになったと考えられます。基金の詳細はこれから議論されますが、気候変動による被害に直面しているアフリカのCOPでその道が開かれたことは、歴史的な第一歩と言えます。

◆現地で実感したこと

今回、私は初めてCOPに現地参加したのですが、そこで印象に残ったことを紹介します。

現地には、世界各地のNGOやユースも多く参加しており、交渉のウォッチだけでなく、会場内で気候正義と人権擁護を求める様々なアクションが行われました。COP27はエジプトでの開催ということで、市民に対する人権侵害への懸念が示されていました。実際に過去のCOPより制約が多かったものの、気候危機に直面する人々が気候変動問題の解決を求める声は、誰にも止められないことを示したと思います。

また、COPには多くのビジネス関係者が参加していたことに驚きました。パリ協定以降、ビジネスでも気候変動への対応は避けて通れない、あるいはビジネスチャンスと捉えられていることを実感しました。こうした潮流を背景に、COP期間中に国連の専門家グループによる、企業等がネットゼロ宣言に対する提言が発表されました。グリーンウォッシュを防ぎ、実質的な排出削減を促すような内容となっています。

◆気候危機を回避するために

今回、損失と損害で大きな前進が見られましたが、排出削減対策を強化しなければ気候変動の「適応」の限界を超えた「損失と損害」は拡大し続けます。質の高い、大規模な排出削減対策が求められています。それは、化石燃料依存からの脱却と再生可能エネルギーへの転換の加速であることは議論の余地がありません。カーボンパジェットに照らすと、1.5℃目標達成のために残された時間は少ないですが、日本でも、石炭火力から脱却し、再生可能エネルギーをさらに広げていくことが、今とこれからの気候危機を回避することにつながっていくと思います。



◆環境腹話術 20年を経て

コロナ禍も丸3年経ちましたが、まだまだ収まったとは言えません。結局は、次々と変化していくコロナとうまく付き合っていくしかないようですね。

コロナ禍での環境学習は、1年目は6園(10件)、2年目は5園(7件)と、実施していただく園が少なくなりましたが、3年目の今年度は7園(12件)と徐々に戻りつつあります。

《環境腹話術》

「環境腹話術」は2002年から主として畠山智子さんに、演じていただきました。20年も経ったんですね。初めて腹話術に接した子どもたちはもう20代半ば、ふと、どんな大人になっているかなと思います。

その間、少しずつ内容は改訂、工夫を加えて現在の形になったわけですが、今年も少し内容を検討しようということになりました。

畠山さんの腹話術では、毎回、なぜ地球が温暖化しているのか、温暖化した地球(お熱を出している地球)を助けるために何をすればいいのかを、パペット(人形)たちと一緒に考えています。



アイアイ

おひさまマンに変身する「シンちゃん」、森の木が切られてここに来たおサルの「アイアイ」、氷が解けてえさに困っている「シロクマくん」、きょうとグリーンファンドのキャラクター、ネコの「ぐりにゃん」・・・。

お茶のペットボトルやレジ袋がいっぱい溜まって困っている「シンちゃん」は、子どもたちから「お茶を入れた水筒を持っていく、エコバックを持って買い物に行く」と教わるようになりました。おひさまマンに変身した「シンちゃん」がつけた扇風機、「つけっぱなししてたらもったいなーい!」と子どもたち。

誰もいない部屋、誰も見ていないTV等の電気は消す。お水を出しっぱなしにしない、水筒やエコバッグ持参などは、「常識」となっています。



ぐりにゃん

そこで、水筒やエコバックに代わって「食品ロス」のことを加えてみようということになりました。世界で、日本で「食品ロス」を減らすことは、CO2排出削減にも効果的なことから、まずは子どもたちと一緒に食べ残しをするとどうなるのか、食べ物を大切にするにはどうすればいいのか、一緒に考えていきたいと思えます。もちろん好き嫌いもなくして欲しいですが。

また、着なくなった服、読まなくなった絵本、遊ばなくなったおもちゃは、「譲る」など、ごみにしない工夫を、新しく加えることになりました。現在、新しいツールを準備中です。来年度はさらにテーマが広がった環境腹話術になるはずですよ。

《自然観察会》

コロナ禍で、自然の中で思いっきり遊ぶ機会が減っていたようです。こども園で自然観察会を親子参加で募集したら大勢の参加希望があった、とお聞きしました。参加された親子共々「楽しかった」「いい機会になった」と言ってもらえました。

春と秋、違う季節で2回自然観察会をされた園もありました。

春は、木々が新緑に覆われ美しく、小さな草花が咲き、色々な虫にも出会います。秋は、紅葉した葉やドングリなどの実をたくさん拾うことが出来ます。それぞれの季節のなかで、子どもたちがさまざまな自然に出会い、その奥深さに触れ、感じてくれることは、私たちにとっても嬉しいことです。



来年度も、きょうとグリーンファンドの環境学習が役立ってくれることを願って、さらに工夫を重ねていきたいと思えます。

(きょうとグリーンファンド 深川佳子・山本照美)

はじめまして・・・

・・・ 藤田 葉子

3月に入会させていただき、経理担当になりました、藤田葉子です。長年の経験を生かせればとおもっていますが、会社でのやってきたこととのギャップに少々戸惑いもありますが・・・打破して頑張ります。

NPO 関連についての活動も全く知識が乏しいのですが、事務局の皆様のご支援に支えられて少しでもお手伝いできればと思っています。

微力ですが宜しく願いいたします。兵庫県出身、現在は京都市伏見区に在住しています。

基金は めぐる・・・

きょうとグリーンファンドでは、おひさま発電所を設置する際、初期費用の一部としておひさま基金から助成金のような形で支援をしてきました。おひさま基金の原資は市民のみなさまからの一般寄付、既設のおひさま発電所からの寄付など、主に寄付を積み立てたものです。

「既設のおひさま発電所からの寄付」？。ちょっと不思議に思われた方もおいでと思います。きょうとグリーンファンドでは、おひさま発電所は多くの市民からの寄付を活用して設置を進めていますので、完成したおひさま発電所ではその分自己資金の負担が減ることになります。その部分を設置後は、一定期間次のおひさま発電所設置や環境学習のために寄付していただけないか、という願いをしています。この寄付は「発電収入」の一部でもあります。ある人はこれを「寄付の交換」と表現しました。基金はめぐっているわけです。

じつはこの「おひさま基金」が今めぐりにくくなってきました。昨年、一昨年とおひさま発電所設置が進まず、すなわち基金へのご寄付にもつながらないとか、会員さんが残念ながら少しずつ減っているなどが原因と考えています。一般寄付もやや減少ということもあり、基金の捻出も厳しくなりそうです。様々努力はしていますが、良いお知恵がありましたらお貸しください。よろしく願いします。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

きょうとグリーンファンドの SNS

◆ Facebook



◆ Instagram



◆ YouTube

きょうとグリーンファンド
・ぐりふあんチャンネル



きょうとグリーンファンドのファンを増やして、応援していただけるよう、SNS を活用して情報発信をしていきます。ぜひご覧いただき、いいね！、フォロー、シェアをお願いします。皆様のご協力をお願いします。HP、ブログも随時更新しています。ブログは環境学習の様子など発信していますので、ぜひご覧いただき、感想などお寄せください。
(きょうとグリーンファンド事務局)

編集後記

- ・定期点検の期間を、原発の運転期間から外して実質延長するなんて、仰天！今までの基準って何なの。そうまでして、原発を動かさないとならない状況ではない！早く原発という選択肢をなくしてほしい、また事故が起こらないうちに。(K.O)
- ・先日、ガスの検針票を見てビックリ！「高い！！」。年末年始、子どもたちが帰ってきたので、そのせいかと思ったけど、どうやらガス代が上がっているらしい。電気代も上がっているんでしょうね…。(Y.F)
- ・個人的には穏やかな年明けでしたが、原発の再稼働やロシアのウクライナ侵略、北朝鮮のミサイル、中国の覇権主義、等々。一つでも解決できるようにしたいです。(T.Y)
- ・ウクライナの方にカイロを送る為の回収BOXを見掛け、28年前神戸の地震で被災された方々にカイロやガスボンベを運ぶボランティアをした事を思い出しました。京都とは別の世界が広がり、唾然とするばかりでした。平和で安心、安全な生活が一番。(Y.M)
- ・ウトロ平和祈念館おひさまプロジェクトが始まった。エネルギーの民主化と人権をつなげる取組みだ。気候正義を目指す取組みでもある。もっともっと広げよう！(T.H)
- ・終息にはまだ遠いけど、制限のない生活が待ち遠しいこの頃です。事務局に参加させてもらって間もなく一年です。新生児から乳児に中々成長しないけどゆっくり頑張ります。(Y.F)
- ・近所の正月桜は早くも5分咲き。ウクライナ侵攻、原発推進、気候危機、コロナ…と憂いはつきませんが、それでも美しい自然の移ろいに癒されます。この美しい自然を次世代にどう残していくか、今が正念場ですね。(S.K) ●●● 7

《 ぐりふあん日誌 》

- | | |
|--|--|
| 8/6 エコ体験イベント参加 / 上鳥羽北部いきゼン | 11/5 自然観察会(みょうりんえんこども園) / 京都御苑 |
| 8/8 ウロ口平和祈念館 市民再エネプロジェクトの打合せ | 11/5 STOP気候危機京都市民アクション参加 |
| 8/24 第140回理事会 理事長選任 | 11/10 第7回全国小水力発電大会京都参加 |
| 9/7 新理事長 田浦健朗 就任 | 11/12 自然観察会(陵ヶ岡こども園) / 天智天皇陵 |
| 8/27 自然エネルギー学校・京都2022第4回 / 京エコロジーセンター | 11/12 上鳥羽小学校150周年記念イベント参加 / 上鳥羽小学校 |
| 9/6 環境腹話術 / 聖光幼稚園 | 11/19 自然観察会(上鳥羽北部いきゼン) / 村山公園 |
| 9/7 ヒアリング(NPO砂浜美術館 村上健太郎理事長)
家庭や地域で使える「再エネ・省エネ説明会」
(エコ学区サポートセンター) / 東山いきゼン | 11/24 自然観察会(自然幼稚園) / 京都御苑 |
| 9/13 上鳥羽エコまちクラブ打ち合わせ(上鳥羽北部いきゼン
エコグループ) / 京都市市民活動総合センター | 11/30 京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議 |
| 9/16 ウロ口平和祈念館おひさまプロジェクト打ち合わせ
/ ウロ口平和祈念館 | 11/30 畠山智子さん来室(環境腹話術について) |
| 9/21 下鴨幼稚園 訪問 | 12/1 太陽ガス株式会社(小平さん、峰さん)来室 |
| 10/4 第141回理事会 | 12/2 第142回理事会 |
| 10/7 フォーラムひこばえ新館竣工お披露目会参加 | 12/7 吉祥院こども園訪問 |
| 10/7 下鴨幼稚園訪問 | 12/9 ウロ口平和祈念館おひさまプロジェクト学習会
/ オンライン |
| 10/25 自然観察会(大宮保育園) / 府立植物園 | 12/21 下鴨幼稚園訪問 |
| 10/26 下鴨幼稚園訪問 | 12/27 市民再エネプロジェクトin京都ミーティング / オンライン
(2023年) |
| | 2/1 ひこばえ児童館打合せ(雨水タンク設置について)
/ オンライン |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によってささえられています。おひさま基金へのご支援をお願いします。

◆ ゆうちよ銀行

ゆうちよ銀行振替口座番号：00930-6-157817 加入者名：きょうとグリーンファンド

◆ オンライン寄付サイト Give One

クレジットカードによる寄付ができます。

「わたしのまちに太陽光発電～寄付で自然エネルギー」



◆ ソフトバンクつながる募金



携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、ソフトバンクユーザー以外の方でもクレジットカードによる寄付ができます。

★詳細はきょうとグリーンファンド HP 「入会・寄付のご案内」をご覧ください。 <http://www.kyoto-gf.org/donate/donate.html>

★2020年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数

正会員 36 賛助会員 23
法人会員 5 2023/2現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; <http://www.kyoto-gf.org> (火～金 13:00～16:00)

